

Direct-Information of Orienteering in Nippon

(公社) 日本オリエンテーリング協会 理事会・事務局便り



第 38 号 (2023 年 4 月 14 日発行)

今年は足早に春の陽気が訪れ、早くも初夏の陽気となっている地域もあるようです。いよいよ新型コロナウイルス感染症の取り扱いが変更となり、ほぼ以前の生活に戻ることになります。JOA でも感染症防止のためのガイドラインの変更がありますので、ぜひご一読ください。

本号の内容

- ・ 長期事業方針・中期事業計画について
- ・ 「新型コロナウイルス感染症防止のためのガイドライン」の廃止について
- ・ JOA 地域活性化討論会開催！
- ・ 今後の公認大会・講習会のお知らせ

●長期事業方針・中期事業計画について (副会長 愛場)

この度 JOA では、2023 年度からの長期事業方針、2023～6 年の中期事業計画を策定いたしました。長期事業方針においては、今後 10 年から 20 年にわたって目指すべき行動目標として、以下の 5 項目の柱を設定しております。

1. オリエンテーリングの価値を発信し、社会に貢献する
2. アスリートを育成・支援し、生涯スポーツを推進する
3. 国際交流・協力を推進する
4. 組織力と基盤を強化し持続可能な組織とする
5. 構成員・支援者を支える

この 5 つの柱は相互に関連しており、具体的な事業内容においては重複する部分もあります。詳細な内容については、ホームページにて公開しております。

JOA 長期事業方針 https://www.orienteering.or.jp/archive/joa/long-term-policy_202304.pdf

JOA 中期事業計画書(2023～6 年)

<https://www.orienteering.or.jp/archive/joa/mid-term-plan-2023-2026.pdf>

また併せて、2020 年度からの中期事業計画の自己評価も行っております。

JOA 中期事業計画の自己評価

https://www.orienteering.or.jp/archive/joa/self-assessment_202303.pdf

日本のオリエンテーリングの発展に向けて、引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

●「新型コロナウイルス感染症防止のためのガイドライン」の廃止について

(危機管理・コンプライアンス委員会)

新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の 5 類相当の取り扱いとなる 2023 年 5 月 8 日以降、JOA の「オリエンテーリング大会、練習会開催時における新型コロナウイルス感染症防止のためのガイドライン」を廃止いたします。

ご存知の通り、新型コロナウイルス感染対策は規制緩和が進んで来ています。2022 年 12 月にも日本スポーツ協会のガイドラインが改訂され (スポーツイベントの開催における感染拡大予防ガイドライン

<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>)、過去において定めた様々な要件などが実態にそぐわなくなってきました。今後 5 類扱いになることで、発生についての届け出義務がなくなるなど、さらに各種規制が緩和される方向で改訂されてゆくことが予想されます。

上記を受けて、JOA 独自の「新型コロナウイルス感染症防止のためのガイドライン」は 2023 年 5 月 8 日

以降廃止とし、大会主催者や参加者は、厚生労働省、各地の自治体、日本スポーツ協会、UNIVAS などの示す一般的な感染防止のガイドラインに則って行動することといたします。

もっとも、再度パンデミックが起こった場合やコロナ以外の感染症が流行した場合等にあつて、一定の基準で行動することが望ましいと考えられる場合には、改訂を行って復活させる可能性もあり得ますのでご承知おきください。

●JOA 地域活性化討論会開催！（地域活性化委員会委員長 新帯）

2023年3月18日、Zoom を活用した「JOA 地域活性化討論会」を開催しました。JOA 愛場副会長をはじめ、全国より約15名の参加をいただきました。また事前にも多くの意見をいただきました。約90分間でしたが、JOA 地域活性化委員会で集約してきた様々なご意見とそれに基づいた JOA 中長期計画への提案を皮切りに、地域が抱える課題や要望など、フリーディスカッション形式で話し合いました。

特に、オリエンテーリング経験者で今は地域にいて活動されていない人、ロゲインや OMM をやっていて地図読みに興味のある人、学生時代にオリエンテーリングをやっていて、就職とともに地方に移住している人などへアピールしたいという要望などが出されました。

また、競技者人数や運営スタッフが少ない会員では大きな負担となる JOA 会費などにも話は及びました。

JOA 活性化委員会では、まずはできることから着手すべく、競技登録者の皆様へ都道府県の枠を超えてブロック全域、あるいは全国へ情報を伝えるメールマガジンなどの準備を進めています。さらに今後も意見を出し合う機会の場を設けていきたいと考えています。

3. 具体的施策案

- (1) 集える場の提供
まずは、OLを愛する者同士、知り合い、集まり楽しむことから始める。
- (2) 人的ネットワークの充実
さらに輪を広げ、目的をもって参画できる仕組みを作る。
- (3) 資金的バックアップ
安定した活動をささえる資金的バックアップ制度をつくる。

(注記)

- ・地域により、会員により状況は様々です。
どこから始め、どこを支援するのか、個々のケースについてもご意見ください。

●スキーオリエンテーリング全日本選手権 報告（スキーO委員会）

3月3日(金)～5日(日)北海道留寿都村「ルスツリゾート」を舞台に全日本選手権が開催された。競技は、4日(土)午前にはスプリント、午後にはミドル、5日(日)午前にはパシュート、午後には都道府県対抗リレー。2日で4レースという選手にとっては少々過酷なイベントとなった。大会にはトップ選手はもちろん、インカレを翌週に控えた北海道大学オリエンテーリングクラブのメンバー、地元の子供達など幅広く参加があり、雪上でのオリエンテーリングを楽しんだ。

○スプリント競技

フラットな地形ではあるが、スピードを維持しながら、適切なルートチョイスと正確なナビゲーションが要求されるコースが準備された。

男子は、混戦となったが、安定したレースを続けた石原拓巳(神奈川県)が優勝した。2月に実施されたクロスカントリースキー国体の神奈川県代表として、スキー技術の強化に努めてきた成果である。2位は石原湧樹(アークスキーチーム)、3位は道坂怜生(大阪大)。2位と3位は僅か1秒差。

女子は、長年スキーオリエンテーリング界を牽引してきた酒井佳子(札幌農学校)と昨年の世界選手権代表の佐野響(桐嶺会)が同タイムで優勝となった。3位は高橋美和(アークスキーチーム)。

○ミドル

丘陵地で開催され、地形を読みとる力、登り、下り含めたスキー技術など総合力が問われるレースとなった。男子は、石原湧樹が前半のリードを守り切り、後半追い上げた寺嶋謙一郎(東京農業大)を48秒差という僅差で競り勝ち優勝した。3位はこの1年でめざましい成長を遂げている清水嘉人(札幌農学校)が食い込んだ。

女子は、酒井が貫禄を見せて圧勝した。2位は佐野、3位は高橋。佐野は、昨年4月から社会人となりトレーニング時間が減少したことが影響したと悔しさを滲ませた。

○パシュート

パシュートは、前日のスプリント成績順に、優勝者からタイム差でスタートし、最初にゴールした選手が優勝となる。パシュートレースは、スプリントよりも距離が長いいため、スプリントで出遅れた選手も十分挽回可能。

男子は、石原拓がスタート。18秒遅れて石原湧、さらに1秒後に道坂がスタートした。序盤で石原湧がトップに立ち、危なげなく貫禄の優勝となった。2位石原拓、3位道坂となった。

女子は、スプリントで優勝した酒井と佐野が同時スタート。レースは複雑なルートを丁寧に読み解き、細いトラックでもスピーディーに滑らせた酒井が勝利した。2位は高橋が佐野を捉え、嬉しい銀メダル。3位は佐野。

○都道府県対抗リレー(スプリントリレー)

大会の最後はスプリントリレー。2人一組でそれぞれ3回出走、1・3・5走と2・4・6走を走る。

男子は、スキーOでは珍しく(?)有力なチームが揃いスタート前から火花を散らした。レースはハイスピードで展開、1走は北海道第2チーム道坂が躍動感あふれる走りでもってトップで戻ってきた。僅かに遅れ岩手の岩淵泳人(盛岡第三高校)が2走岩淵七海(八幡平市立松尾中学)にタッチ、JWSOC代表の兄弟のタッチに会場はどよめいた。3位に清水が会場に姿を現し寺嶋謙にタッチ。強豪の東京は石原湧とスキーO委員長の柴田とチームを組んで、柴田が1走。ベテランらしい粘りのレースを続けたが、2分遅れの6位でのタッチとなった。北海道1は寺嶋謙が順調に飛ばしトップに立ち、その後トップを譲ることなく優勝した。清水は全日本初タイトルとなり、喜びを爆発させた。2位北海道第2、3位東京となった。岩手が4位入賞は立派。上位を狙っていた神奈川は石原拓が痛恨のペナ。

女子は、4チームとやや寂しいレースとなった。北海道のベテランペア(酒井、白鳥桂子)が1走から独走状態で盤石の優勝。2位は、長野県(高橋、稲森夕衣)。稲森は初めてのスキーオリエンテーリングで、果敢にエリートに挑戦し、見事に結果を出した。東京は1走佐野が酒井に食い下がり見せ場を作ったが、大里真理子が4走で隣接コントロールをパンチし失格となった。茨城も失格となり完走は2チームのみとなった。

大会会場には堀井学 JOA 会長が来場、競技を視察された。トップ選手への激励、そしてトップアスリートとしての視点から、コンディショニングの重要性についてもアドバイスがあった。

【成績抜粋】

□全日本スキーO選手権(スプリント)

《ME》

- 1 石原 拓巳 0:11:45
- 2 石原 湧樹 0:12:03 アークスキーチーム
- 3 道坂 怜生 0:12:04 大阪 OLC

《WE》

- 1 酒井 佳子 0:11:42 札幌農学校
- 1 佐野 響 0:11:42 桐嶺会/スキーO
- 3 高橋 美和 0:12:17 アーク スキーチーム

□全日本スキーO選手権(ミドル)

《ME》

- 1 石原 湧樹 0:46:18 アークスキーチーム
- 2 寺嶋 謙一郎 0:47:06 東京農業大学
- 3 清水 嘉人 0:56:22 札幌 OLC/札幌農学校

《WE》

- 1 酒井 佳子 0:59:10 札幌農学校
- 2 佐野 響 1:12:34 桐嶺会/スキーO
- 3 高橋 美和 1:15:08 アーク スキーチーム

□全日本スキーO選手権(パシュート)

《ME》

- 1 石原 湧樹 0:39:01 アークスキーチーム
- 2 石原 拓巳 0:40:12
- 3 道坂 怜生 0:42:40 大阪 OLC



酒井佳子選手



石原湧樹選手

《WE》

- 1 酒井 佳子 0:32:52 札幌農学校
- 2 高橋 美和 0:36:04 アーク スキーチーム
- 3 佐野 響 0:38:57 桐嶺会/スキーO

□全日本スキーO 選手権(都道府県対抗スプリントリレー)

《ME》

- 1 北海道 1 0:43:11 (清水 嘉人・寺嶋 謙一郎)
- 2 北海道 2 0:45:18 (道坂 怜生・木谷 弥彦)
- 3 東京都 0:48:56 (柴田 達真・石原 湧樹)

《WE》

- 1 北海道 1 0:55:17 (酒井 佳子・白鳥 桂子)
- 2 長野県 1:26:59 (高橋 美和・稲森 夕衣)
- 3 北海道 2 1:31:58 (外館 里美・藤井 春菜)



清水嘉人選手・寺嶋謙一郎選手

●今後の公認大会・講習会のお知らせ

イベントアドバイザー研修会は、実地のほかオンラインでの受講もできます。

6月24日	2023年度イベントアドバイザー研修会	(東京都)
7月29日	コーチ2 移行講習会(オンライン)	
8月5日	コーチ2 移行講習会	(東京都)
8月26日	2023年度イベントアドバイザー研修会	(岐阜県)
9月18日	コーチ1 新規講習会(オンライン)	
9月23日	コーチ1 新規・移行講習会	(静岡県)
11月4日	第12回全日本大会(ミドル・ディスタンス競技部門)	(千葉県)
11月5日	第50回全日本大会(ロング・ディスタンス競技部門)	(千葉県)
11月23日	2023年度イベントアドバイザー研修会	(東京都)
1月13日	コーチ1 移行講習会	(大阪府)
2月4日	第32回全日本リレーオリエンテーリング大会	(佐賀県)
冬季	第16回全日本大会(スプリント競技部門)	(東京都)

以上